



No.59
 2023.2.10
 発行：特定非営利活動法人
 所沢市学童クラブの会
 広報部
 所沢市くすのき台2-20-6
 Tel：04-2994-6753

大切な一日だから

お誕生日特集



並木学童

「本日の主役は…」

誕生日の子に当日のおやつのリクエストを聞いてみたり、写真付きのメッセージカードをプレゼントしたりと毎年「何がいいかなあ？」と指導員で相談。今年「キャンディー」になりました。一年生は七個、二年生は八個、そして六年生は、十二個!!と、年齢と同じ数のキャンディーやグミをレイにしてプレゼントしています。



誕生日が近くなる
と「グミ多めで。」
「チョコだけっていいのもあり?」と指導員のユニオに来て、
こっそりとリクエス

トする子もいます。リクエストによって出来るキャンディーレイも様々なのでキャンディーレイをプレゼントされた子のところに集まって「あつその手があつたか。」「わあ。いいなあ。私も同じのが欲しい。」「このアメイまいんだよね!」など話もはずみキャンディーレイの情報収集やらレイ研究やらが始まります。
みんなの前だと恥ずかしがっていた子が、帰るときには首にかけて嬉しそうに帰っていく姿も見られます。
子どもたち一人一人の個性がほんの少しだけ垣間見える事

が出来て、プレゼントを贈る指導員も楽しんでます。
さあ。次はどんな「キャンディーレイ」になるのかなあ♡

宮前学童



宮前学童では、保護者の方に子ども達への誕生日メッセージを書いていただき、プレゼントしています。メッセージには、今は元気に遊びまわっている子が、産まれたときはとても小さく心配をした話や、名前の由来など、普段はなかなか聞くことのできない内容に、
どの子もかけがえない子ども達なのだ改めて強く感じさせられます。学童クラブからは写真入りフォトスタンドと選べるプレゼントを贈

ります。選べるプレゼントとは、フルーツジュース、大きなゼリー各三種類の中から、二個をプレゼントするのですが、楽しみにしてってくれる子が多く、選んでいる子はもちろん周りで見ている子も、わくわくした表情で見守っていて、可愛いです。
学童の壁には、春にお誕生表を貼り出し、毎月子ども達が手作りしてくれるカレンダーに、お誕生日の子の名前を記入して掲示しています。「今日は○○ちゃんのお誕生日だよ」とカレンダーを見て、気が付いた子ども達が「○○ちゃん、おめでとう!」と声をかけている微笑ましい姿を見ることが出来ます。保護者の方からのお誕生日メッセージは、今後も続けていきたいと思っています。



椿峰学童

誕生会

椿峰学童では、子どもたちのお誕生日に保護者からのお手紙と、学童からささやかながら記念の一枚を入れた写真立てをプレゼントしています。

時間に追われるような日々の中で、ついつい「早くしなさい」とか「いい加減にして」というような言葉をかけているということはないでしょうか。本当は、かわいくて、大切に、何よりも愛しい存在のわが子に、毎日「大好きだよ」「あなたがいるから幸せなんだよ」という言葉をかけてあげたいけれど、意外とそういう親の気持ちを言葉にして伝えてあげることがないかもしれません。そうした中で、一年に一度の機会に、お子さんへ向けにお手紙を書いていただいています。

「生まれる前や、生まれた時のエピソード」「名前の由来」「小さい頃の事」「家庭での様子」「成長したなど感じること」「いつも言えないありがとうの気持ち」など、

保護者の方の「大好きだよ」という気持ちを綴った手紙は、支援員が子どもたちの前で代読しています。

手紙の種類は家庭によってさまざま。子ども名前で「あいいうえお作文」になっているものや、年齢に応じた種類の「ありがとう」のメッセージ、兄弟からの手紙もありました。表彰状になっている子もいて、「まさかそうくるとは！」といった内容に子どもはもちろん、大人にも大うけ

安松学童

愛の言葉のシャワーを

お願いします

安松学童クラブの誕生会の取り組みは、保護者から子ども



でした。兄弟がいること、下の子の面倒を見てくれていたり、料理を作ることができたり、習い事やできることが増えたこと等々、そのどれもが愛に満ち溢れていている手紙ばかりです。子どもたちにとっても、心に残るプレゼントになっていると思います。実際、自分の手紙を読まれて照れてしまう子が多いのですが、す



もに向けてのお手紙をお願いしています。書いていただいた大切なお手紙と友達と撮った写真を一緒にカードにしています。さらに、学童クラブから文房具のプレゼントも楽しみにしている子が多いです。ちなみに今年度は、富士山消しゴムでした。

この取り組みの最も大切にしているところは、保護者への「おねがい」をお手紙の原本とともに入れているところだと思えます。この「おねがい」に取り組み始めたベテラン指導員の思いがあり、その思いを大切に引き継いでいま

べての子に共通していることは、聴いているときにみんな笑顔になっているということ。みんなと一緒に笑ってしまふ内容の手紙もありました。そういった特別な感情を、一人だけでなく一緒に生活をする仲間と共有することで、お互いの理解にも大きな影響を与えていると思います。

自分だけでなく、周りの人も同じように大切にされる存在なのだということをこの取り組みを通じて、子どもたちに

す。日々忙しい中わが子のことを命に代えても守りたい、かけがえのない子ということを再確認し、生まれた時のエピソードや名前の由来、どんなに生まれてきてくれてうれしかったのか、大切に思っているのか「愛の言葉のシャワー」をお願いします」と書いてあります。

毎回代読する指導員が涙をこらえるのに必死です。中には家族全員で書いてきてくれる手紙もあり、愛されていることを子どもたち一人一人が実感することのできる素敵な取り組みだと思えます。

知ってもらいたいです。

学童クラブの会のHPはこちらから！



緑町三丁目学童保育所
(よつぼクラブ)
入所児童募集中
1年生から6年生まで
安心して通い続けられます。
入所募集はこちら→
学童クラブの会HP



しゅくしゅくあそびぼう

子どもまつり

子ども実行委員会

三ヶ島学童

今年で三十三回目になる西地区学童（林、若狭、宮前、三ヶ島）でおこなっている行事です。子どもたちに手づくりあそびの楽しさを伝え、地域の子どもたちとの交流を図るために長年おこなっている歴史ある行事です。

コロナ禍で、対面でおこなえず、どのように続けていくか模索し、今年度はオンライン開催にチャレンジすることになりました。準備を進めていくのは子ども達です。各クラブから子ども実行委員を募ります。実行委員長は持ち回りで行っていて、今回は三ヶ島学童クラブが子ども実行委員長として、実行委員会開催の呼びかけや、実行委員会当日の司会進行をおこないます。

子どもたちにとって初めてのオンライン会議、ドキドキするけどなんだか楽しそうに準備を進めていました。実行委員長は五年生四名ですが、

会議当日は二名お休みだったため、出席の子で進行を割り振ることにになり、大丈夫かなと心配していましたが、指導員が声をかける前に自分たちで考え、分担をし、無事に会議に望むことができました。

画面上に見える他のクラブの様子に「林学童はどのくらいの大きさなの？」と、実際に会うことはできませんが、画面を通して他クラブの様子など知ることができました。会議では役割分担を決めたり、作品の紹介をしました。作品を見られたことで「あれ面白そうだね！」とおまつりにむけて期待が高まる様子が伝わってきました。

対面のできる行事が一日も早く開催できるようになることが一番ですが、これからも今できることを子どもたち・指導員会で相談しながら進めていきたいと思います。



シリーズ 前ちゃんの現地レポート①

リポーターの前野です。二〇二二年三月末に常勤職を退任し、四月から補助指導員（パート職員）として複数のクラブでお手伝いさせてもらっています。

各クラブの顕著な違いは、施設、立地条件、子ども達の人数と学年構成等です。これら全部を環境と捉えて、「学童クラブにおける環境と指導員の仕事」的な事を雑駁ですが、レポートします。これは、あくまでも感想です。もちろん、各クラブを比較するものではありません。今回は住宅地の中にある山口学童クラブの様子をレポートしますね。

カルガモの飛来する農耕地が学童クラブの横に広がっています。雨降る季節は、水たまりが池のようになり、カルガモウォッシングもできます。が、学童クラブの庭は狭く、しかも周りは住宅地。狭い庭ですが、一輪車、大縄、フラフープ等子ども達は上手に場所と時間を共有しながら過ごしています。この「上手な場所と時間の共有」に至るまでの過程については、いつか当該指導員の実践報告等、楽しく

聞けたらと思います。

庭よりも広いホールでは、ボール遊びを展開しています。室内は子ども達が帰ってくる時まで宿題をする学習の場になります。大方の子達が宿題等を終わった頃合いを見計らって「ドンガメするよ」と声がかかると、待ってましたばかりにボール遊びの好きな子達がホールに集まり順番を決めながら遊び始めます。力の差などを考慮して、低学年の時間や高学年の時間、全員の時間など、一定の交通整理は指導員がしています。

玄関との境には手製のネットが張られ、ボールが飛び出さない工夫が。和室との境にはボールが当たっても衝撃が緩和されるようにロープで固定された仕切り扉があり、和室でのんびり過ごす子達の居場所を保障しています。

子ども達が学童クラブでストレス少な目に生活するためにできる事を、創意工夫で日々精進している指導員って、やはり難しくて面白い仕事だと思います。どんな環境下でも

「すべては子どものために」を実践しているのだなと実感しました。パートとして微力ながら応援していきたいと思いました。

次回は学童クラブの遊びの内容について、触れられたらと思います。

文章：前野 仁美



著者近影：よつば1年生





森木 葉子 指導員

牛沼学童クラブ

クラブでは子どもにもリッキーと呼ばれるいます。友達からこう呼ばれているので、自分の方から「こう呼んで」とアピールしました。いつもバタバタしていて大人のくせに落ち着きないと思われていると思います。得意なことは、ベースなどの手芸やミシン縫いが得意です。特にベースは売り物になるくらいなんだとか。昨年の夏、ケガをして出勤できなかった時、刺繍などでオセロゲームを作成し

ました。ピアノも好きなので、子どもと一緒に弾けるのがとても楽しいです。おやつは、「年に三種類は新しいメニューを考える」と自分に課して、納豆たくあんうどんを出したのが思い出深いです。子どもたちから好評でした。(疑う方もいるかもしれませんが、本当においしいのでオススメです。)

走るのが好きで、趣味で走っています。ケガする前は、調子いい時は所沢シティマラソンで入賞して、トコロんのメダルをもらいました。100kmマラソンを完走したこともあります。三年前はフロリダのティニスニールドマラソンに出ました。四日連続で5k、10k、ハーフ、フルを走って、走った後に遊園地でも遊びました。

学童を卒所した子たちが「リッキー競走しよう!」と言って森木さんに挑みに来ています。子どもたちにとっては「足の速いリッキー」は卒所してから戦いたい相手なのです。

日々一生懸命やっているのですが、「ボールに空気に入れて」と言われて入れたとだんなになぜかボールがペしゃんこになったり、「一輪車の高さを変えて」と言われてやろうとしたけど力がなさ過ぎて他の職員に頼んだりとうまくいかなかったことは多々あります。

そんな森木指導員は子どもたちにとっては頼りになるけど、ちよっとおちょちよごちよいでほっておけない、そこがかわいい存在のようです。指導員として大切にしている

ことは、自分が楽しむこと、ワクワクすること!! 毎日「今日は〇〇をしたいな...」など楽しいことを探しながら出勤しています。

コロナ禍で大変なことはあるけれど、それでも楽しいことはいっぱいあるから苦労は打ち消されている感じがします、というリッキーです。

子どもたちにはこの先、楽しいこと、自分にとって得意なことを探して行って欲しいです。森木さん、これからもますます走り続けてください!

次号の目次



編集後記

寒中お見舞い申し上げます。

今号は、「お誕生日」の特集でした。保護者のお手紙から誕生のエピソードや名前の由来を学童クラブの仲間たちとも共有できる。「風間の兄弟」ならではの学童クラブの素敵な取り組みですね。

あっとい間に一月ももう終わりの一月往ぬる二月逃げる三月去る「いちげついぬるにげつにげる さんげつさる」などど表現されることよ。

「正月や節分にうるう年などが目白押しな一月から三月までの時期は、時間の流れが早く毎日があっとい間に過ぎ去ると喻えた言葉」ですよ。本当にそんな実感です。あっとい間に過ぎ去る時間、ですが「忙しい忙しい」だけで過ぎてしまつのは残念な気もします。少しでも「幸せ」な時間を過ごすことができるといいですね

「三月去る」三月は、年度のおしまい、卒業、学童クラブでは「卒所」と呼んでいるところもあります。六年間通った学童クラブからの巣立ち、暖かくなる春を前に次号は「卒所」を特集したいと思えます。

寒い日が続きます。みなさまご自愛のほどお過ごしください。

(松尾 徹)